

令和元年6月7日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03389

研究課題名(和文) 16世紀前後の日本と東アジアの環境文学をめぐる総合的比較研究

研究課題名(英文) Comprehensive Comparative Research between Japanese and East Asians Environment Literature Around 16th. Century

研究代表者

小峯 和明 (KOMINE, Kazuaki)

立教大学・名誉教授・名誉教授

研究者番号：70127827

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：第一に日本及び東アジアの環境文学をめぐる内外の図書館、美術館などに所蔵される資料調査を実施し、従来着目されていなかった貴重な資料を発見し、収集したこと。第二にそれらの資料にもとづく研究会を内外で継続させたこと。第三に環境文学に関する総合的なシンポジウムを立教大学で開催し、それに連関するシンポジウムやワークショップを北京、ソウル、ハノイで複数開き、調査と研究の成果をもれなく公表し、論文集及び資料集として公刊する段階に至ったこと、等々である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、近現代文学や欧米との比較文学に止まっていた環境文学の領域を、前近代の古典分野及び東アジアの漢文文化圏にまでひろげ、東アジアの研究者間の協同体制を作り上げた。天体、気象、四季、景観、災害、食文化、動植物、異文化交流等々の諸分野から基礎的な資料を収集し、それらを体系化することで総合的な視野を開拓し、地球温暖化や大気汚染など深刻化する環境問題や相次ぐ災害問題に対応しうる環境人文学の一環としての地位を確立した。また、環境文学を軸とすることでカノン主体の文学史を相対化し、あらたな文学史・文化史再編成への道を拓いた。

研究成果の概要(英文)：First, The Japanese And East Asian's Environmental Literature's data and materials preserved by libraries and art museums have been investigated, and we have discovered and collected the precious materials hadn't payattention to before; Then, upon these materials, seminars have been held continuously in domestic and abroad; Last, Rikkyo University held the synthesize symposium and Peking, Seoul, Hanoi also held the related symposiums several times, investigations and research achievements have been declared totally, thesis collections and material collections have been published, etc.

研究分野：人文学、日本古典文学、東アジア比較説話

キーワード：環境文学 東アジア 比較説話 二次元的自然 資料学

1. 研究開始当初の背景

地球温暖化や環境汚染、さらには 2011 年の東日本大震災及び原発破壊問題等々、益々深刻化している環境問題に対して、人文学は何ができるかが問われている。すでに歴史学は災害問題を歴史的な変遷過程から精密に跡づけていく研究が積極的になされているが、文学研究の本格的な対応は遅いと言わざるをえない。1994 年に発足した「文学・環境学会」は活発であるものの、自然と人間を二項対比的に扱うアメリカのネイチャー・ライティング研究の影響から波及したもので、欧米との比較文学や日本の近代文学が中心で、古典及び東アジアにまで充分視野が及んでいなかった。

代表者は、まず食文化が環境問題と直結していることから、食の文芸のテーマを手がけ、その過程で 16 世紀が大きな転換期であることを見出し、この分野の先駆者であるシラネ・ハルオ、渡辺憲司と共編で『文学に描かれた日本の「食」のすがた』(『国文学解釈と鑑賞』別冊、200 年)を編集し、座談会と論考をまとめた。さらに 2010 年、「文学・環境学会」の設立者である野田研一及び渡辺憲司を中心に立教大学で「環境と文学」の国際シンポジウムを開催、シラネ・ハルオが基調講演、代表者もパネル発表を行った。このシンポジウムをもとに、野田、渡辺、シラネ、小峯の共編で『環境という視座 日本文学とエコクリティシズム』(『アジア遊学』2011 年)を刊行した。ついでシラネ・ハルオ『Japan and the Culture of the Four Seasons; Nature, Literature, and the Arts』(コロンビア大学出版部、2012 年)が刊行された。野生の自然よりも人工的な自然「二次的自然」を中心に文学、美術との関連を新しい角度から追究した力作で、文芸に加えて絵画造型の視覚文化がかかわり、名所論に発展、見立てやパロディ文化にもつらねた。対象も詩歌、物語から俳諧、演劇、料理や和菓子などに及び、きわめて幅広く射程が深い研究で、邦訳が出ていないため、まだ日本の学界で充分認知されていないが、今後に波及する問題は大きい。

また、2010 年よりパリを起点に『酒飯論絵巻』の日仏共同研究が始まり、研究代表者も参加、複数のシンポジウムをもとにその成果もまとめた(『アジア遊学』2014 年、及び論集・臨川書店 2015 年)。さらに 2012 年の『文学』(岩波書店)の 16 世紀特集号で研究代表者が提起した 16 世紀の「叢生の文学史」論とも相乗し、時代の食文化を象徴する絵巻として、絵画と文芸の交差する「饗宴の文芸」として定位することができ、メディア研究からも重要な対象であることを明らかにした。これらを受けて、代表者は『日本文学史』(吉川弘文館、2014 年)を編集し、従来の時代別やジャンル別の論を排してテーマ別の文学史を構想し、「環境と文学」に 1 章を当てて執筆した。「四季のイデオロギー」「災害の文学史」「食文化と文学」「動植物の文学」の 4 節にわたって検討したが、一般向けの概説的な記述で代表的な作品を取り上げるに止まり、その周辺や裾野に多くの埋もれた作品資料があることを再認識しつつも俎上に載せることができなかった。

さらに、これと前後して、代表者とシラネ・ハルオとの対談「日本文学研究の百年」(『文学』2013 年 11,12 月号)及びシラネ、分担者の染谷智幸、金文京との座談会「トランス・アジアの文学」(『文学』2014 年 5,6 月号)などでも、日本と東アジアの「二次的自然」が話題になった。環境問題が日本国内だけで考えにくいように、環境文学もまた東アジアとの連関及び対比からとらえていく必要が痛感され、とりわけ「二次的自然」の東アジア間の位相差の究明が課題となってきた。一国内文学史ではなく、東アジア文学圏からの総合的な文学史の再構築をめざす一環として、環境文学は欠くことのできない主要なテーマであることが浮かび上がってきたのである。

2. 研究の目的

環境文学とは、自然環境と人間社会及び文化との関わりをとらえた文学全般を指す。この分野の研究はアメリカから始まり、日本でも「文学・環境学会」が意欲的に活動しているが、近代文学に偏向し、いまだ学界全般に浸透、定着しているとは言いがたい。古典文学の分野でも一部に試みは見られるが、東アジアをも視野に入れて総合的に展開させる次元にまでは至っていない。ことに、野生の自然よりも人工的に再生産された「二次的自然」が文学に深い影響を及ぼすと同時に、文学が「二次的自然」を生み出してきたともいえる。この「二次的自然」の大きな転換期と目される 16 世紀前後(中世・近世の転換期)を中心に、日本と東アジアの環境文学を基礎的な資料学から再構築し、絵画造型なども併せてその全体像を究明することを目的とする。

(1) 日本と東アジアの環境文学の全体像に関わる文学資料群の確定

(2) 総合的な資料調査収集による実体把握

(3) 総合目録のデータベース化と貴重資料集の紹介、ホームページなどによる公開

(4) 研究会の組織化と活動による環境文学の翻刻注解とその公刊

(5) 国際会議の開催と論文集・資料集の公刊による環境文学の文学史的意義付け

近年注目される日本と東アジアの漢文文化圏の課題の一環として、重要な領域を占める環境文学の全体像について、資料学の観点からその実体を統一的に掌握し、その特性や意義を明らかにする。基礎的で総合的な東アジア文学圏の比較資料学の確立を課題とする。文献のみならず、図像や造型、口頭伝承や芸能なども対象にする。異文化交流・多文化交流の文学史にかかわる環境文学を軸にした、あらたな文学史の再編成を試みる。

3. 研究の方法

- (1) 日本の環境文学の資料群の確定と目録の作成、国内外の資料調査と収集
- (2) 中国の環境文学関連の資料目録の作成、資料調査と収集
- (3) 韓国・ベトナムの環境文学関連の資料目録の作成、資料調査と収集
- (4) 欧米所蔵の環境文学関連の資料調査と収集
- (5) 研究会の組織化にもとづく総合目録の作成と公開、総合的な比較研究の推進
- (6) 環境文学の資料集の作成、公刊
- (7) 環境文学を主題とする国際会議の開催、各種成果報告、論文集の公刊

日本及び東アジアの各地で一次資料を直接調査収集し、整理した上で、それらをもとに環境文学の範疇を設け、分類し、資料集を作成し、あわせてそれらをもとに環境文学をめぐる学会を開催し、成果を公表する、という方法の流れになる。

4. 研究成果

- (1) 環境文学のリスト作成と資料の調査・収集

まず、環境文学の全体の範疇を、先に執筆した『日本文学史』の「環境と文学」章を再検証し、「天体・気象・四季」、「景観・聖地・名所」、「災害・公害」、「食文化」、「異文化」、「動物・植物・異類」に再編成してリストを作成したが、分量が膨大であるため、詳細な掌握にまでは至らなかった。国内では、特に沖縄市立博物館の琉球文学関連の資料調査と観音信仰をめぐる遺跡のフィールドワーク、南方熊楠顕彰館所蔵の南方熊楠旧蔵の資料調査他を行った。東アジアに関しては、北京の国家図書館、清華大学図書館、北京大学図書館、ソウルの東国大学図書館、ソウル大学奎章閣、高麗大学図書館、ハノイの漢喃研究院、社会科学院図書館、ホーチミン市の恵光修院等々、多地域にわたる漢文体の環境文学関連資料を調査、複写、デジカメ撮影などを行った。

- (2) 研究会の組織化と継続

環境文学の資料集作成のための研究会を組織し、年数回の会合を開催し、その都度資料収集をもとにそこからみえる問題点の検証を行った。分野が多岐にわたり、資料が膨大になり、分類法を幾度も改訂し、三年間でまとめきれなかったため、以後も継続して、環境文学資料集を公刊する予定である。また、本研究会を軸に分担者も加わって、年度ごとに活動報告をかねたニュースレターを公刊した。

- (3) 国際シンポジウムの企画、開催

2016年11月に北京の中国人民大学で日本と東アジアの古典を中心に環境文学のシンポジウムを開催した。また、2017年11月に北京の清華大学で「生命と環境 東アジアの文学と文化」として文学、歴史学、民俗学メンバーと併せてシンポジウムを開催した。さらに2018年7月に本科研のまとめとして、立教大学日本学研究所及び立教大学日本文学会と共催のかたちで、「16世紀前後の日本と東アジアの環境文学」のシンポジウムを開催した。欧米、中国、韓国、ベトナムの研究者を招いて、基調講演と四つのセッションのシンポジウムを行い、浩瀚多岐に及ぶ環境文学の意義を追究、活発な議論がかわされ、おおきな成果を収めることができた。また、2019年3月にソウル大学で朝鮮古典の研究者と環境文学をめぐるシンポジウムを行った。

- (4) ワークショップの企画、開催

上記のシンポジウムと関連して、2018年10月にハノイ大学の日本文化をめぐる国際シンポジウムにおいて日本と東アジアの環境文学でパネル発表を行い、さらに2018年11月に中国人民大学で説話文学学会創設55周年記念特別大会にあわせて環境文学と説話文学をめぐるラウンドテーブル形式のワークショップを実施した。いずれも従来にない研究テーマとして大きな反響があり、地域間や分野を越えたネットワークの拡充をはかることができた。

- (5) 論文集と資料集の編集、公刊

以上の成果をふまえて、立教大学でのシンポジウムを主体に『日本と東アジアの環境文学』と題して、勉強出版より三十数名からなる論文集を公刊する予定で、現在編集を進めている。また、北京やハノイ、ソウル等々で行ったシンポジウムやワークショップの成果も順次、まとめて公刊する計画である。一方、資料集は逐次、『立教大学大学院日本文学論叢』に分載して掲載の予定である。また、二、三年内には研究代表者の単独の環境文学論文集も公刊に向けて準備している。環境文学を軸にすることで従来のカノン中心の文学史とは全く異なる視点から、災害文学史や動植物文学史、天体気象文学史、景観文学史等々あらたな文学史を構築する可能性が拓けてきた。同時並行で進めている環境文学コレクションとあわせて総合的な環境文学史をまとめる計画である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計11件)

小峯和明他19名(12番目)「巨樹と樹神 環境文学の道程」, 山口博監修・正道寺康子編『ユーラシアのなかの宇宙樹・生命の樹の文化史』アジア遊学228号、勉誠出版、査読無、2018.12、pp181-194

鈴木彰他5名(5番目)「日本における異界・他界表現と複数世界論 断続・杜絶・再生」, 日本18世紀学会『年報』33号、査読無、2018.6、pp25-27

鈴木彰他7名(1番目)「大島忠泰の文事と『平家物語』・お伽草子・幸若舞曲 『古今戦』にみる薩摩の文化環境」, 『民衆史研究』94号、査読無、2018.3、pp3-16

金文京他18名(12番目)「白居易の酒と茶の詩 山人文学の視点から」, 『白居易研究年報』18号、勉誠出版、査読有、2017.12、pp272-285

小峯和明他27名(1番目)「東アジア・漢字漢文文化圏論」, 小峯和明監修・金英順編『シリーズ日本文学の展望を拓く第一巻 東アジアの文学圏』, 笠間書院、査読無、2017.11、pp3-27

小峯和明他28名(1番目)「環境文学 構想論」, 小峯和明監修・宮腰直人編『シリーズ日本文学の展望を拓く第四巻 文学史の時空』, 笠間書院、査読無、2017.11、pp3-22

金文京他5名(3番目)「福澤諭吉の漢詩31 - 写真の題詩と地方漫遊の詩」, 『福澤手帖』174号、査読無、2017.9、pp15-19

小峯和明他19名(14番目)「本草学の世界 環境文学への道程」, 野田研一・山本洋平・森田系太郎編『環境人文学 文化のなかの自然』, 勉誠出版、査読無、2017.4、pp291-310

小峯和明他10名(6番目)「池袋の森と「石打ち」小考」, 『文学』11・12号、岩波書店、査読無、2016.12、pp156-166

染谷智幸他14名(10番目)「命懸けの虚構 - 通し矢・矢数俳諧・『好色一代男』」, 篠原進・中嶋隆編『ことばの魔術師西鶴 - 矢数俳諧考』, ひつじ書房、査読無、2016.11、pp241-258

鈴木彰他20名(6番目)「硫黄島の安徳天皇伝承と薩摩藩・島津斉興 文政十年の「宝鏡」召し上げをめぐる」, 井上泰至編『近世日本の歴史叙述と対外意識』, 勉誠出版、査読無、2016.7、pp85-113

〔学会発表〕(計14件)

小峯和明「日本と東アジアの 環境文学 16世紀前後から」, ソウル大学国際シンポジウム「東アジアの環境文学」, 2019年3月16日、ソウル大学、韓国ソウル市

鈴木彰「壬辰倭乱における被虜人為善が描いた 朝鮮 像」, ソウル大学国際シンポジウム「東アジアの環境文学」, 2019年3月16日、ソウル大学、韓国ソウル市

染谷智幸「日本の天災・韓国の戦災 武士層と両班層の存立基盤」, ソウル大学国際シンポジウム「東アジアの環境文学」, 2019年3月16日、ソウル大学、韓国ソウル市

金文京「朝鮮翻刻明代伊王府刊本『釈迦仏十地修行記』の金牛太子説話」, ソウル大学国際シンポジウム「東アジアの環境文学」, 2019年3月16日、ソウル大学、韓国ソウル市

小峯和明「環境文学 論 聖地と景観・巨樹を中心に」, ハノイ大学第3回国際シンポジウム「グローバル化時代における日本語教育と日本文化」, 2018年10月16日、ハノイ大学、ベトナムハノイ市

小峯和明「東アジア文化圏の中世文学」, 平成30年度中世文学会秋季大会、2018年10月13日、秋田市文化会館、秋田県

小峯和明「日本と東アジアの 環境文学」, 立教大学日本学研究所国際会議「日本と東アジアの 環境文学」, 2018年7月28日・29日、立教大学、東京都

小峯和明「東アジアのイソップ寓話 東西交流文学をめぐる」, 北京大学国際シンポジウム「日本与世界: 文明的伝播、互動与発展」, 2018年6月2日、北京大学、中国北京市

小峯和明「日本と東アジアの環境文学・巨樹をめぐる」, 中国暨南大学国際シンポジウム、2017年12月24日、中国暨南大学、中国広州市

染谷智幸「庭園と環境 水辺・泉殿・地下水・井戸」, 清華大学国際シンポジウム「生命と環境 東アジアの文学と文化」, 2017年11月4日、清華大学、中国北京市

鈴木彰「『平家物語』が描く戦場 いくさの表現史」, パリ・デイドロ大学国際シンポジウム「『平家物語』 軍記物語の語りと叙事詩の語り」, 2017年10月19日、パリ・デイドロ大学、フランスパリ市

金文京「東亜漢字文化圏的翻訳 - 漢文訓読及其相間問題」, 中国国家図書館国際学術会議「翻訳と漢学史」, 2017年9月15日、中国国家図書館、中国北京市

小峯和明「日本の古典と環境文学」, 2017年度文学・環境学会シンポジウム、2017年8月24日、清泉女子大学、東京都

金文京「近世東亜文人交流の特徴 - 以朝鮮燕行使、通信使與中日文人交流為例」, 台湾中正大学国際学術会議「近世意象與文化轉型国際研討会」, 2017年4月28日、台湾中正大学、台湾嘉義市

〔図書〕(計5件)

作: 井原西鶴 訳: 矢野公和、有働裕、染谷智幸『日本永代蔵 全訳注』, 講談社、2018.9、pp456

小峯和明著『遣唐使と外交神話 『吉備大臣入唐絵巻』を読む』, 集英社、2018.5、pp224

監修：小峯和明、金英順・出口久徳・原克昭・宮越直人・目黒将史編『日本文学の展望を拓く』全5巻、笠間書院、2017.11、pp496（第1巻） pp370（第2巻） pp410（第3巻） pp490（第4巻） pp402（第5巻）

作：覚訓、編訳：小峯和明・金英順『海東高僧伝』、平凡社、2016.9、pp392

金文京・黄仕忠・真柳誠・朱鵬・岡崎由美・芳村弘道編『日本所藏稀見中国戯曲文献叢刊』第2輯（20冊） 広西師範大学出版社、2016.9、pp456

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：鈴木 彰

ローマ字氏名：SUZUKI, akira

所属研究機関名：立教大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：40287941

研究分担者氏名：金 文京

ローマ字氏名：KIM, bunkyo

所属研究機関名：鶴見大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：60127074

研究分担者氏名：染谷 智幸

ローマ字氏名：SOMEYA, tomoyuki

所属研究機関名：茨城キリスト教大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：90316498

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：金 英順

ローマ字氏名：KIM, youngsoon

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。